

(第3種郵便物認可)



□神戸紅茶 (神戸市東灘区)

紅茶消費量が全国上位の神戸で紅茶の製造を始めて来年で95年。ティーアドバイザーで広報担当の久保田陽香さん(28)は「コーヒーに比べると市場は小さいが、紅茶のニーズは高いはず」と自社ブランドの販売拡大に意気込む。11月に健康志向の高まりを意識した有機茶葉使用の新商品を発売した。

創業当初から、紅茶メーカー

本格紅茶 手軽にいかが



工夫を凝らしたパッケージの商品を紹介する久保田さん

「や喫茶店などに商品を卸す企業間取引を主とし、茶葉の買い付けから、商品の生産までを自社で一貫して行う。茶

メモ 1925年創業。57年に英国の大手紅茶メーカー「リプトン」の工場として指定され、現在は日本で初めてドイツのティーバッグ製造機を導入した。現在は「スターチェス」などの商品を手卸している。

葉の収穫期を迎えると、仕入れ先のインドやスリランカなど世界約160の茶園から送られてくる紅茶をブレンドし、毎年変わらぬ味を提供する。高い目利き技術を持つ担当者が、多いときには1日数百杯をティースティングし、商品に不備がないか目を光らせる。

11月に発売した「オーガニ

1993年からは自社ブランドを展開。ただ、当初は個人向け商品の開発経験が浅く、「魅力が伝わらない商品を作っていた」との反省も。高品質な茶葉を使っても、パッケージは真っ白なポリ袋にラベルを貼った簡素なもの、店頭に並んでいても手にとってもらいにくかったという。

一般的に、オーガニックの茶葉は有機農薬を使っており、風味が薄いと言われているが、紅茶鑑定士らが厳選した茶葉を使用することで、強い味を実現した。

さらに、外見からも魅力が伝わるように包装にイラストを多用したり、パステルカラーを使用したりして工夫を凝らした。久保田さんは「本格的な味が手軽に楽しめる。ぜひ購入して」と呼びかけている。

(石見江莉加)

経済最前線

「ツク&フェアトレード」(3種、税込込み540〜648円)は有機茶葉の使用や、発展途上国で作られた農作物を適正な価格で購入する「フェアトレード」の認証を受けたことも商品の新しい魅力として売り出す。